2021 年度年度末報告書（実行団体）

● 提　出　日 ： 2022年4月25日
● 事　業　名 ： 自然と生きる若者集団プロジェクト
● 資金分配団体 ： 一般財団法人中部圏地域創造ファンド
● 実 行 団 体 ： 特定非営利活動法人かしもむら
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無 ： □有 ☑無

① 実績値　（実績値の対象は、基本は 2021 年９月～2022 年３月末。）

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況 （実施した活動内容も５W１H や、参加人数等もわかるように書いてください＝別紙一覧でも可）	進捗状況 ＊
1. 協議体として機能するため、課題実行団体が連携して事業を実施する。	①協議体構成団体の定期例会議の実施回数 ②協議体構成団体の定期例会議の参加人数 ③協議体構成団体の連携事業数〞	①協議体構成団体で 6 回/年間 ②協議体構成団体で 60 人/年間 ③6 件	2023 年 3 月	全体の定例会議については、コロナ感染防止のため全団体が揃い対面で行うことが困難であったため、毎月オンライン形式で実施し、それぞれ参加人数は月平均 6 名であった。また、団体間の事業連携については、県境を越えての移動が伴うため、常に感染防止に配慮しながらの状況であったが、実施方法を工夫しながら行った。（詳細は別表のとおり） その中で、遊休農地解消に向けたスマート農業導入事業、GIS マップ化、学生の地域活動への参加、山村スタディーツアー、農村の景観調査と水車プロジェクトなど、コロナ禍でも地道に取り組み姿勢が、地域住民から評価を得ることができた。	2 計画どおり進んでいる
2. 協議体構成団体の事業参加者がスキルアップし、地域の持続的発展に取り組む。	①協議体構成団体の研修・視察の実施回数 ②協議体構成団体の研修・視察の参加人数 ③地域との活動の種類、規模と実績 ④地域との活動に参加	①協議体構成団体で 2 回/年間 ② 協議体構成団体で 100 人/年間 ③ 地域住民との合同検討会 3 回/年間 ④100 人/年間〞	2023 年 3 月	10 月からは、女性や UI ターン者などの地域活動への参画を促すため、地域情報の発信役となる“地元ライター”の育成に取り組んだ。メンバーは協議体構成団体の 3 名と公募した地元住民 7 名で、毎月１～2回記事の書き方や写真の撮り方などの講習会や視察研修を実施しながら、地域産品や生産者の取材を行い、計 22 本の記事をオンラインショップ「カシモール」に掲載するなど人材育成に取り組んだ。	3 計画より遅れている

	した人数″			また学生らの活動については、現地への往来や地域住民との直接的な接触は制限されたため、検査の徹底しオンラインを併用しながら活動を行った。その中で、長期的に滞在しながら地域住民とのコミュニケーションを深める活動に取り組んだことにより、地元の森林組合やとの関連性も生まれ活動の幅も広がった。	
3.協議体の組織基盤強化に取り組む	①協議体の組織体制 ②地域及び関係者の協議体に対する評価	①協議体の組織体制、事業内容、資金計画等が明確にされる ②協議体の活動が地域・関係者で評価される	2023 年 3 月	現状では、活動の中心となる若者たちの往来が制限されたことにより、直接的に活動に参加する若者の人数は減少してしまったが、協議体が取り組む事業に対する地域住民の評価、期待は高まっている。ただ、人口減少、高齢化への影響が深刻化しており、中山間地域の農地の保全、地域資源の活用、生活支援を担っていく地域運営組織の必要性は高まっている。	2 計画どおり進んでいる
4. 事業の制度化を図り、他地域での事業展開に取り組む	①事業成果を明確にした報告書。 ②事業制度確立に向けた関係機関との協議回数	①報告書の発行 ②2 回以上	2023 年 3 月	行政機関、大学関係者とも検討を進めているが、現時点では、コロナ禍の影響により、大学内での活動制限が行われており、他地域での新展開など事業拡大は困難な状況となっている。 ②地域資源を活かした体験プログラムの創出に向け、下呂市と中津川市の観光部局及び下呂温泉 DMO との広域連携のプロジェクトに参加しながら協議を行った。 （3回、10/15,12/10,1/17） 地域おこし協力隊などの地域づくり人材の育成、まちづくり組織の強化、交通弱者対策等について中津川市と協議を行った。（2 回、12/24,2/2）	2 計画どおり進んでいる

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

②事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 □変更なし　□短期アウトカムの内容　□短期アウトカムの表現　　□短期アウトカムの指標　□アウトカムの目標値
3. 活動に関する報告
１．課題実行団体であるNPO馬瀬川プロデュース、一般社団法人aichikara、学生団体加子母木匠塾との連携を強化し、過疎地域が抱える様々な課題解決と、若者たちが学びや体験を通じて効果的に課題解決が図れるよう調整を行った。コロナ禍の行動制限がかかっている状況下であったため、地域住民から学生たちの活動に対して理解が得られるよう、各行政機関や地域団体との調整を行いプログラムづくりに取り組んだ。 ２．馬瀬地域での展開については、下呂市馬瀬振興事務所や区長会の理解のもと、南飛騨馬瀬観光協会、認定農業者の方々など多くの協力を得ながら、学生や若者たちのフィールドワークの実施に関し支援を得ることができ、今後も若者たちのリアルな体験に対し協力していただける関係性が構築できた。また、オンラインでのセミナーやSNSの活用、「カシモール」等ECサイトの構築など、コロナ禍に対応したオンラインでのプログラムの構築に取り組んでいきた。 ３．過疎地域が抱える課題を若者たちの力によって解決していくプロジェクトのひとつとして、前期に行ったスマート農業（ラジコン式草刈り機）に続き、GISを活用した地域資源マップづくりに取り組んだ。地域住民を対象としたアンケートに基づいて活動内容を検討したが、農地の保全など高齢化により不足している労働力の補完だけでは、学生たちのモチベーションが上がらないのではと危惧したが、参加した学生たちの感想は地域住民との交流や活動も新鮮な体験で満足度も高く、今後も新しい要素を取り入れながらプログラムのアップデートを行っていきたい。 ４．過疎地域と若者（学生）という枠組みだけでなく、コロナ禍の影響もあり、開放的な自然環境でのワーケーションなども注目されており、コロナ後のライフスタイルの提案を見据えながら、教育関係者、企業など幅広い分野と連携することにより、地域の資源活用と学生たちの学びを融合させるプログラムを確立し、目標としている持続的な運営を行っていく協議体づくりに向けて取り組んでいきたい。
6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
岐阜県の定める行動指針及び活動に参加する大学の学生窓口との調整を行いながら独自のガイドラインを策定し、活動参加時のPCR検査の実施等、大学側、地域側双方の理解を得たうえで活動できるよう調整を行った。

③広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
□自団体のウェブサイトで表示している　　☑広報制作物に表示している ☑報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　□その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）:
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 加子母木匠塾の活動（岐阜新聞） 2.広報制作物等 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

④規程類の整備に関する報告

1.　事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
□完了　　☑整備中
2.　整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
□全て公開した　☑一部未公開　□未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：
3.　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。
☑はい　　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.	社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
	☑はい　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.	内部通報制度は整備されていますか。
	☑はい　□いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：□内部に窓口を設置　□外部に窓口を設置　□ JANPIA の窓口を利用
3.	利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
	☑はい　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.	関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
	☑はい　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.	コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
	☑はい　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
6.	報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
	□内部監査を実施　☑外部監査を実施　□実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、3～4 枚程度）

左：協議体と大学教員打合せ

中：地域資源 GIS マップ作製指導

右：ふるさと回帰支援センターとの意見交換